

平成 29 年度 第 3 回市民活動サポートセンター運営懇話会 会議概要

平成 29 年 11 月 16 日（木）18:30～20:00

横須賀市立市民活動サポートセンター

出席者	9 名…岩堀、石塚、川島、佐久間、多賀名、妻沼、藤野、三澤、吉田、小澤
欠席者	0 名
事務局	2 名…市民生活課 馬淵、長谷川
指定管理者	2 名…NPO 法人 YMCA コミュニティサポート 高橋、沼崎
傍聴者	0 名

- 配布資料
- 1 市民活動サポートセンター例月実績報告・利用者の声
 - 2 夏の市民活動・ボランティア体験 2017 報告
 - 3 のたろんフェア 2018 開催予定・実行委員会名簿・参加受付団体一覧
 - 4 サポートセンターデータベース登録団体一覧・新規異動分
 - ・ 2018 年度 NPO 法人 YMCA コミュニティサポート 事業方針計画（案）
 - ・ 市民活動サポートセンター利用者数推移
 - ・ 夏の市民活動・ボランティア体験 2017 報告集
 - ・ 横須賀「生涯現役」フォーラムチラシ・ひくてあまた月間パンフレット
 - ・ 地域で支え合う人の輪づくり講演会チラシ
 - ・ 改正 NPO 法のポイント学習会チラシ

1 報告事項

1-（1）利用状況、利用者の声について

指定管理者及び市民生活課から、資料 1 に沿って報告した。

（指定管理者：汐入について）

- ・ 10 月までの時点で、利用者数は前年度比で少し落ちている。
- ・ 「休憩していたら男性にどけと言われた」という利用者の声について。スタッフも、できるだけ館内の隅々まで目を配りたいと思っているものの、この時は気付くことができなかった。スタッフ一同、改めて意識していきたい。
- ・ 自販機の音が大きいという利用者の声は、初めてのご意見だ。普段は、オープンスペースの外側に面したテーブルは人がそばを通るので、あまり使われないのだが、館内が込み合っていて外側に座ることになったとき、音の出る物がそばにあると気になることがあるのだろう。自販機事業者に伝えるとともに、距離に気を付けてテーブルを配置するようにしたい。
- ・ パソコンがなかなか繋がらないという利用者の声は、昨年から寄せられていたものだが、Wi-Fi の親機を性能の良いものに替えたことで、その後特にトラブルは起きていない。

（市民生活課：久里浜・追浜について）

- ・利用者数は前年度比で少し上がっている。コピー機は前年度より上がっており、特に久里浜は大きく伸びている。印刷機の利用はいずれも下がっている。

(懇話会構成員からの質問・意見)

- ・座っていたら怒鳴られたということだが、個人の場所でもないのに、怒鳴る方がおかしい。
→怒鳴っていればスタッフが気付くと思うので、大きな声は出していないと思う。声を荒げる人がいるとき、利用者がミーティング中にけんか腰になってしまったときなどは、スタッフが様子を見に行くようにしている。(指定管理者)
- ・昼間の交流サロンでは、一人で本を読んだり、ノートを開いたりしている人もいる。そういう人に「相席どうぞ」という札を立ててもらい、テーブルが足りない時に他の人と共有して使ってもらうのは難しいか。
→いいアイデアだと思うので、検討したい。一人で利用する人も、小さな机に座ってくれる場合ばかりではない。たとえばパソコンのそばには大きいテーブルしかなく、そこにパソコン利用者が荷物などを置いてしまうと、他の人は遠慮してそのテーブルを使えなくなってしまう。相席可という表示があれば、使ってもいいのだと伝えられる。(指定管理者)
- ・利用票を机に立てず利用している人もいるようだ。受付を通らず、利用票を書いていないのでは。
→新聞や資料を読みに来ているだけの人は、受付で人数のカウントのみ行い、利用票を書かずに通しているケースがある。それ以外で、受付を通らずに利用している人に気付いたら、スタッフが声を掛け、利用票を書いてもらうようにしている。(指定管理者)

1－(2) 夏の市民活動・ボランティア体験 2017 報告

指定管理者から、資料2に沿って報告した。

(指定管理者)

- ・参加団体を通して、参加者にアンケートを配布している。各団体、自分たちのイベントを実施しながらアンケートを配っており、手が回っていないケースもあるので、アンケートの回収率は100%ではない。なので、アンケート結果だけで判断はできないが、回収・集計した結果としては、学生の参加が増えているようである。ここ数年、大学に出向いてPRしてきた成果が出ているのだと思う。また、同じくアンケート結果では、この企画を知ったきっかけとして、イベント情報冊子と、団体からの口コミが多かった。やはり口コミの影響は強いと思うと同時に、市内にきちんと広報媒体を配っていることにも、それなりの効果があったと考えている。

(懇話会構成員からの質問・意見)

- ・団体として、大学授業出張PRに参加したが、とても反響があってよかった。

1－(3) のたろんフェア 2018 について

指定管理者から、資料3に沿って報告した。

(指定管理者)

- ・昨日が参加団体の一次募集締切だった。一次募集で応募団体数が定数を超えたカテゴリーは抽選、定数に満たなかったものは先着順で二次募集を行う予定だったが、全てのカテゴリーで定数を超えたので、二次募集は行わない。
- ・館内のフリーマーケットが人気で、落選した団体もあった。しかし、館外の飲食ブースに余裕があったため、落選団体に屋外で良ければフリーマーケットができると打診したところ、全団体が館外販売を希望し、結果として、落選団体は無しとなった。
- ・パネル展示も定数を超えたが、レイアウトを調整し、全団体に展示してもらえることになった。
- ・ショッパーズプラザ横須賀のステージも人気で、定数を超えたので、現在調整中。プレイメントと当日の両方の出演を希望した団体に、どちらかを遠慮してもらうことで、何とか収まりそうである。
- ・今回の参加団体数は 88 団体の予定で、昨年度より増えている。新規団体数が 14 団体と多い。
- ・フェアの開催時間は、例年は 16 時までだったが、今回は実行委員会で検討し、15 時までとした。
- ・例年のルールとして、参加団体説明会に参加しない団体はフェアに出られない可能性があるとお知らせしている。かなり浸透してきて、ここ数年は出席率 100%となっている。
- ・フェア終了後には、参加団体報告会と、参加団体交流会を行う。フェア当日は自分の団体のブースで手いっぱい、なかなか他の団体と交流できない。今回は初めての団体も多いので、この機会を活用して交流してもらえたらと思う。

(市民生活課)

- ・昨年度は、懇話会構成員の改選時期だったこともあり、構成員募集中と記載したパネルを市民生活課が作成し、掲示した。今回も懇話会として展示スペースにエントリーしているが、市民生活課として内容を考えてはいない。フェアに参加するか、するならどのような内容か、懇話会で検討してほしい。

(懇話会構成員からの質問・意見)

【懇話会のフェアへの参加について】

- ・以前、懇話会構成員がバッジを作成してくれたときがあった。
 - 構成員が目印のバッジを付けて立っていて、懇話会の説明をした年があった。(指定管理者)
 - 今回は構成員改選のタイミングではない。何かするのであれば、利用者で懇話会を組織し、センターの運営について考えている、という紹介・PRが目的になるのではないか。(市民生活課)
 - 例年、構成員の多くが、自分の所属団体としてフェアに参加しているし、フェアの運営ボランティアをしてくれる人もいる。それらと兼務しながら、できるだけ、懇話会のメンバーだと分かるような形で会場にいて、懇話会の説明をしてもらえると良いのでは。(指定管理者)
 - 集合写真を撮って、パネルに載せた年もあった。(指定管理者)
 - 昨年は、構成員の声・コメントを掲載したパネルを掲示した。こういう内容でPRしたい、という考えがあれば、事務局がパネルを作成することは可能。(市民生活課)
- ・毎回、センターの利用状況が資料として配られるが、このようなことは、一般市民は知らないのではないか。久里浜・追浜にサポートセンターがあることも知らない人もいると思う。そういう施設があること、どのような状況なのかということを、PRするといいいのではないか。

話し合いの結果、懇話会のフェアへの参加については、事務局が配付資料・集合写真等をもとに、展示

パネルを作成することになった。

【その他の質問・意見】

- ・参加団体名を見ていると、憲法9条、脱原発などの言葉が入っているところがあるが、政治的な思想で活動している団体ではないのか。
→大きな政治的な方向性・主義を打ち出すことと、具体的な施策に対して市民が意見を言うことは別である。施策に意見するのは市民の権利であり、市民活動の一つのカテゴリーをなしている。そのような考え方は、本センターだけでなく、特定非営利活動促進法や、条例等でも認められている一つのあり方である。（指定管理者）
- ・団体としてサポートセンターに登録し、利用するようになってから、ここは誰でも入れる場所なのだと知った。使ったことがない人は、登録しないと利用できないと考え、敷居が高く感じてしまうのではないか。のたろんフェアで、気軽にサポートセンターに来てください、とPRできればいいと思う。

2 議題

2-（1）サポートセンターデータベース登録団体と公益性の判断について

指定管理者から、資料4に沿って前回以降の新規登録・異動団体について説明した。

（懇話会構成員からの質問・意見）

- ・特になし。

3 その他

①指定管理者より、予定している事業（法人として実施している事業を含む）について報告と紹介があった。

（指定管理者）

- ・「改正NPO法のポイント学習会」（サポートセンターで実施）、「地域で支え合う人の輪づくり講演会」（主催は横須賀市高齢福祉課、サポートセンターも協力）の開催についてお知らせ。
- ・指定管理者が法人として受託し実施している、「企業・NPO・大学パートナーシップミーティング」の報告と、「横須賀『生涯現役』フォーラム」のお知らせ。

②指定管理者より、汐入のサポートセンターの利用促進について意見を聴きたいと提案があった。

（指定管理者）

- ・サポートセンターの利用者数は、平成21年度から平成27年度まで右肩上がりで推移してきたが、平成28年度は前年度とほぼ同数となり、今年度は、10月時点では昨年度を下回っている。ネットプリントに押されて、印刷の利用者数が減少していることが一番の原因と考えているが、それを上回るだけの、人を集められる要素が見つかっていない。

- ・サポートセンターの使い勝手を、よりオープンに、よりハードルを下げる方向にできないか検討している。「サポセンにぎわい大作戦」と称し、現在、スタッフ間の意見集約を行っている。
- ・市民活動サポートセンターは、市民の公益的な活動を支援するための目的施設である。愛好会・同好会は、やがて活動内容が公益的なものに広がっていく可能性があり、育てていく必要があると考えているため、一定の線引きをした上で利用可としている。しかし、個人の学習や勉強のための利用、営利の活動では、利用できないこととしている。そのハードルを下げることも、考えなければいけないと思う。そうした利用を入口として、市民活動、やがては公益活動に繋がっていくような道筋を作ることができればいい。
- ・たとえば、逗子の市民交流センターは、生涯学習、貸室、市民活動支援を一つにまとめた施設。市民活動の打合せコーナーには、一部、自習等で自由に使うことができる部分もあるが、その範囲は多少フレキシブルに動かせるようにしている。
- ・コミュニティビジネス・ソーシャルビジネスという概念が出てきている。営利企業が公益目的で事業を行うなど、営利・非営利を区別する上でのグレーゾーンが生じており、そのような人たちを支援するスペースが各地に作られている。本センターでも、たとえば非営利目的で起業しようと考えている個人が利用できるスペースの提供など、できることがあるのではないかと考えている。
- ・一般の人が集まりやすくなるように、使い勝手の良さ、レイアウト、打ち出し方などについて、ご意見を聞きたい。また、見直しの方向性によっては、今までとセンターの使い勝手が変わってしまう可能性もあるので、そういう点でも、皆さんの気持ちを聞きたい。

(懇話会構成員からの質問・意見)

- ・外国の人の利用状況はどうか。
→統計は取っていない。インターナショナルと団体名に冠しているところはいくつかあり、外国の人が来ているのを見ることはあるが、全体の中での比率はごく少数だと思う。(指定管理者)
- ・以前、ふらっと来た外国の人に、この施設は入れるのか、と聞かれたことがある。さっと立ち寄れる場所だということを知ってほしい。色々なボランティア活動をしている市民が集まっている場所だと知ってもらい、ここに立ち寄ってもらうことによって、何らかの活動に結びつく機会が作れればいいと思う。
→ボランティアをしたいという外国の人の問い合わせや来館はときどきある。ただ、英語が堪能なスタッフがいないこともあり、ボランティア活動を紹介してほしいという場合は、(特非)国際交流協会を案内している。(指定管理者)
- ・日本語をある程度覚えてきたら、日本人と一緒にボランティアをしたいという人もいると思うが、きっかけがつかめないのではないかと。
- ・外国から来ている人の中には、日本人と触れあい、何かを体験したい、という人もいるようだ。センターの入口に、英語でサポートセンターの案内文を記載してはどうか。また、外国の人であっても、英語を話すとは限らない。スタッフの英語がそれほど堪能である必要はないと思う。日本文化に関する活動をしている団体を紹介し、見たり体験したりしてもらえれば、言葉が通じなくても、何かを感じ取ってもらえるのではないかと。
- ・センター内で、講演会やイベントを開催するのは難しいか。のたろんフェアに多くの人が集まっているのは、フリーマーケットだけでなく、イベント的な要素があるのも理由だと思う。地域で開催している認知症カフェでも、音楽やお話などのイベントを入れることで、人が集まっている。

- 講演会は、原則禁止としている。また、マイクを用いて、オープンスペースの大部分を使って開催するものについては、市民が自由に使えるはずのスペースなのに平等性を欠くのではないかというクレームもあった。指定管理者と市民生活課で検討した結果、現在は、マイクを使わない学習会・セミナー等であれば開催可能としている。たとえば今後ルールを変えて、市民活動全体に関わるものであればスペースを貸し切ってイベントの開催を可能とする、という考え方もあると思う。ただしその場合は、スペースの通常利用ができなくなるので、ルールをきちんと決めていく必要がある。（指定管理者）
- のたろんフェアを年2回開催してはどうか。

→のたろんフェアの参加者数は、利用者数統計には入っていない。フェア当日の利用者数は、コピー機・印刷機の通常利用をした人のみカウントしている。（指定管理者）
 - 条例におけるセンターの目的に、子ども、勉強というキーワードを入れることは難しいか。大和市のシリウスという市民ホールは、手前が図書館になっており、6階は市民交流スペースとして開放されている。この6階スペースは、子どもたち、中高生がグループ学習などで利用しており、ワイワイとして活気がある。本市のサポートセンターも、学生にグループ学習等に使ってもらうことで、たとえばセンターを利用している団体の活動を、夏休みの学校の課題に活かしてもらうなど、繋がりを作れる可能性があるのではないか。

→条例上、サポートセンターの役割は、情報の収集および提供、相談、連絡調整、市民公益活動の促進、となっている。指定管理者としては、このうち市民公益活動の促進を重要視しており、事業計画でも、この目的を実現するための方策を複数掲げている。そのうちのひとつとして「地域連携による地域課題、社会課題への対応」を掲げており、具体的な事業のひとつとして、「子どもの未来を地域で支える事業」を位置づけている。サポートセンターが、地域課題を解決するためのネットワーク作りの場になるという考え方のもとで、子どものグループが集まるような機会を、何らかの形で工夫して作ることは可能だと思う。（指定管理者）
 - サポートセンターでは、営利団体と非営利団体を細かく線引きしているのか。

→基本的には、非営利団体のための施設である。ただ、営利企業の社会貢献のあり方が変わってきており、行政と市民団体だけでなく、営利企業も参加して、社会課題の解決に取り組むようになってきている。一緒に課題解決に取り組んでいるのに、営利企業だけサポートセンターを使えない、というのはどうなのか。また、企業がCSRの活動でセンターを利用できるか、という問題もある。団体の性格が営利か非営利かで線を引くことが難しくなり、活動目的で判断すべき状況になっているのではないか。ただ、法律や条例はそのようになっていないので、どうバランスをとっていくかが問題である。さらに、CSVと呼ばれる、企業と社会の双方の利益になる活動という概念も出てきているので、非常に難しい。（指定管理者）
 - 指定管理者の事業計画の中に「地域の支え合いで高齢社会を支える事業」とある。今後、市が介護予防・生活支援総合事業を進めるのに従って、支え合い活動がどんどん地域に降りてくる。そのとき、地域が何をすればいいのか、町内会レベルでは全く分からないこともあるだろう。これからやろうとしている事業が、総合事業のどの枠組みに当てはまるのか、市のどこへ相談すればいいのか、というときに、サポートセンターが繋ぎの役割を果たすべきではないか。

→総合事業には、既にサポートセンターも関わっている。総合事業の中で、住民主体の支え合い活動を広げていくという方向性があるが、そのためのネットワーク作りという役割を、今後、サポートセンターが担っていくことになると考えている。（指定管理者）

- ・印刷の利用が減っていることの補完策は何かあるか。
 - 以前話したカラー印刷機の導入については、保留中である。リースの見積りを取ったが、使用料見込みとの兼ね合いでまかなえるかどうか、難しい。（指定管理者）
 - このままだと、大量印刷は全てネットプリントに移行していくと思う。市民団体にとっては、利便性の高いものを使えるようになって、むしろ問題ないとも言えるが、そうなればサポートセンターの利用は減っていくので、悩みどころである。（指定管理者）
- ・無料で使える Wi-Fi を充実させることは考えていないか。
 - 現在、Wi-Fi は二つあるが、うち一つは利用者用パソコン、多目的ルーム内のパソコンでのみ使用している。これについては、セキュリティを確保するため、今後も利用者の端末で使えるようにはしたくない。もう一つは FREESPOT を設置しているが、あまり多くの人が一斉にアクセスするとキャパシティを超えてしまい、繋がらなくなる可能性がある。（指定管理者）
- ・横須賀市内は Wi-Fi が少ない。Wi-Fi が使える施設を熟知している人などもいるので、Wi-Fi 環境を改善すると、利用しやすくなるかもしれない。
- ・以前、看護師に来てもらい、健康チェックのコーナーを設けていたことがあったと思う。たとえば、今月は健康チェックコーナー、次の月は警察の詐欺対策コーナー、次は消防署の防災コーナー、といった形で、毎月 1 回、何かしらの相談コーナーを設けてはどうか。それが常態化すれば、人が集まるようになるかもしれない。
 - 以前健康コーナーを設けた時は、県立保健福祉大学で行っていた、看護師を施設などに派遣する活動の一環として来てもらった。その時は、訪れた人数が少なかったため、後に続かなかつたが、色々なことを実施すれば、色々な人が来るようになるかもしれない。（指定管理者）

（指定管理者）

- ・来年度に向けて、色々なアイデアを盛り込み、できるだけ皆さんの意見を反映しながら計画を作っていきたい。12 月いっぱいくらいまでにご意見をいただけるとありがたい。

連絡事項

（市民生活課）

- ・市民協働推進補助金と市民協働モデル事業の募集のお知らせ。
- ・第 4 回運営懇話会は平成 30 年 2 月 22 日（木）18：30～サポートセンターにて開催予定。

以上